

NHK前橋放送局と協定

群馬建協、災害時の情報発信で連携

地域一体で命と暮らしを守る

群馬県建設業協会（青柳剛会長）とNHK前橋放送局は24日、「災害に関する情報発信等に係る協定」を結んだ。群馬建協会員と行政機関などが災害情報を共有し、X（旧ツイッター）で発信するシステム「ぐん

う」と期待を寄せた。青柳会長は「災害のセミプロである地域建設業の情報発信を必要がある」と訴えた。ぐんケン見張るくんを活用して「メディアに行政と同レベルの情報に踏み込んでもらうことで、より中身の濃い掘り下げた発信につながるだろう」と期待を寄せた。

群馬建協は3月に群馬テレビ、4月に上毛新聞社と同様の協定を結んでいる。

前橋市の群馬建設会館で同日に協定締結式を開き、青柳会長とNHK前橋放送局の西村理局長が協定書を交わした。

西村局長は「地域メディアや建設業協会との連携により、地域一体で県民の命と暮らしを守る体制を固める大きな一歩になった」と話した。同局の関係者は、ぐんケン見張るくんが「発災前にも、河川や道路の状況をきめ細かく投稿している」と評価。「被害を未然に防ぐツールとして生かせる」との見通しを示した。

「ぐんケン見張るくん」の運用フローに同局が参加。被災箇所や被害が想定される場所の写真や動画を、速報番組やウェブニュース、被害の事前防止に生かしてもらう。群馬建協は将来的にFM放送局とも協定を結びたい考えた。

「コミュニケーションFM放送局7社との協定締結を視野に入れている」と明かした。西村局長は「地域メディアや建設業協会との連携により、地域一体で県民の命と暮らしを守る体制を固める大きな一歩になった」と話した。同局の関係者は、ぐんケン見張るくんが「発災前にも、河川や道路の状況をきめ細かく投稿している」と評価。「被害を未然に防ぐツールとして生かせる」との見通しを示した。

に関する情報発信等に係る協定締結式



建設業界の情報発信について「発信の枠組みはあっても活用できていない地域が多い。ぐんケン見張るくんのような体制を整えているのは群馬県だけ」と主張。発災時にSNSやテレビが使えない場合、「複層化した情報発信手段が大切になる」とし、「コミュニケーションFM放送局7社との協定締結を視野に入れている」と明かした。

群馬建協

NHK 前橋放送局と協定



青柳会長（左）と西村局長

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は24日、災害時の情報発信を一層迅速化するため、NHK前橋放送局と協定を締結した。能登半島地震を契機に、災害対応組織力を強化するのが狙い。群馬建協が運営する災害情報共有システム「ぐんけん見張るくん」に寄せられた、県内各地の地域建設業者が取得した災害対応現場の写真や動画をリアルタイムで共有し、テレビで情報発

信する。

同日、前橋市の群馬建設会館で青柳会長とNHK前橋放送局の西村理局長が協定書に署名した。

青柳会長は、「1000年に一度と言われる能登半島の災害を目の当たりにして、県内の災害対応組織力を一層強化する必要性を感じた。災害に対するセミプロである地域建設業の人たちが災害時の情報をさらに有効に発信することによって、情報発信の点でも体制を強化していかなければならない」とした上で、協定の効果に触れ、「より中身の濃い、掘り下げられた災害時の情報発信につながると期待している。他に例のない、災害に強い群馬県になると思っている」と力を込めた。

西村局長も「自然災害が激甚化する中で、命と暮らしを守る

地域建設業が災害情報を提供

報道はますます重要になっている。正確な情報を迅速に伝えるための、大きな第一歩になった」と協定の意義を強調した。

災害情報共有システムは、災害時や降雪時などに現場の作業員が撮影した画像や動画情報などを、協会ホームページやX（旧ツイッター）を通じて広く発信する仕組み。NHKでは発災前のパトロール時の情報も活用し、災害被害の未然防止にもつなげていく方針だ。

群馬建協が協定を締結するのは、群馬テレビ、上毛新聞社に続いて3機関目となる。今後はコミュニティFMとの協定締結も視野に、協議を進めていく予定だ。青柳会長は「SNS（交流サイト）やテレビが機能しない場合にも有効だ。より厚い災害時の情報発信につながる」との考えを示した。